

かんせいちゅうがっこう

寛政中学校だより

だい ごう 第7号

れいわ ねん がつ にち かんせいちゅうがっこう 令和5年11月21日 寛政中学校

「思春期の親子関係」

校長中村雅一

テレビをつけると、毎日のようにウクライナの焼け魚げて崩壊した街の映像を自にしていたのが、今はパレスチナ、ガザの街の悲惨な状況へと変わっています。浜してウクライナ戦争が終わったわけではありませんが、破壊されたガザ市街、特に医療施設や教育施設への攻撃で家族を失った市民の嘆き、子どもたちの悲鳴、その深い深い心の傷には自をそむけたくなります。人類はテクノロジーを進化させることはできましたが、いまだに戦争を止める手立てを持っていないのだと、無力、懲を懲じます。さらには、「共懲も理解すらもできない他者と共生すること」ができない人間の寛容の無さも思い知らされます。民族や宗教、文化の違いがあったとしても、たとえ理解も共態も絶した他者であっても、共に生きていける人間になること、共生社会を作っていくこと、争いの根本の解決方法だと考えれば、家庭や学校の教育の巣たす役割は決して軽視できないのだと思います。特に、「多文化共生の教育」や「多文化共生の街づくり」の巣たす役割や意味は重要かつ大きいと改めて思います。

さて、話は変わりますが、保護者の皆さま、中学生という思春かの我が字との親子関係は、どうでしょうか。決して順意
風満帆ということはないのかもしれません。中学生になると、「勉強しなさい」と親が言ったところで、自分が遊びたければ親が「ダメ」と言っても遊びに行く、そういった関係性へと変わるのがこの時期の特徴です。中には、家出という強硬手、段にでるのもこの年頃です。また、様々な刺激に足を踏み入れてしまったり、自分のストレスや不快感・不安などのネガティブな感情を人にぶつけてしまう、あるいは、反対に自分の設に閉じこもってしまうのもこの時期の特徴です。

一度学校に適応していた字が、荷らかのきっかけから登校できなくなったり、登校を渋った時の親の不安や苦悩はいかばかりかと思います。ただ、その不適応は、字どもが荷らかの「大きな苦痛」を自分で処理できなくなっている状態です。このとき大事なのは、字どもがそのストレスや不快、不安に思うことなどを親に言うことができる親字関係、もしくは字どもの落ち着く居場所がある家庭の環境だと思います。

また、発覚したいのは、こうした不適応状態でのケータイ・スマホの使用では、字どもが「銀屈と興奮」ので、養になりやすいことです。「銀屈」の炭対は「快楽」というより、「興奮」だといいます。「夢すぎる興奮に慣れっこになった人は、コショウを病がにほしがる人に似ている」と、例えられます。ですから、ある程度「銀屈に耐える」が、「銀屈を楽しむ」がを養う必要があるわけですが、そのがとは、よく旅行発の携帯電話の電波が描かない自然のやで、人間らしさを取り戻す感覚なのかもしれません。

いずれにしても、字どもの一命と健康を守ることにおいては、親が「ダメ」なものは「ダメ」と伝えることが大事です。ケータイ・スマホの使い方はもちろん、第女の付き合い方等でも、親字間で葛藤が起きることもあるでしょう。しかし、「ダメ」なものは「ダメ」と、字どもの安心・安全のために大きな壁となる親の役割は、字どもに無意識レベルで「自労は親に大事にされている」という実態と心理的な安定を与えます。

臨床心理士の表清原美以さんは、「思春期の親子の関係性とは、『叱られた人の腕で抱かれて安心する』という関係性で、荷か大きな失敗をしてしまっても親の顔を見れば安心するという関係性である。」と言っています。 さらに、「叱るということと、受け入れるということを同時に矛盾なく行うことができる特殊な関係が、親子関係である。 しつけは、子どもの常快感情を安定して受け入れる姿勢と、ダメなものはダメと伝えてゆるがずにいられる強さの意力 によって成立する。大事なのは、葛藤を懸れず、子どもときちんと向き合うことだけである。」と著書(「子どもの意情コントロールと心理によ」)の中で述べています。

このことは、学校の教師も間じて、字どもが大人の枠組みからはずれようとしている時には「不退転の壁」となることが必要です。それにもかかわらず、字どもが興味茶位からであれ、失敗した場合には、その責任は字ども自身が自分で取るということを学習させなければいけません。しかし、そうした失敗や不都合が生じた時こそ、その字どもの菌り懲や不快感等をしっかり受け止め、最後まで寄り添いながら字どもの学びや自立についくという支援をしていくことが教師の務めでもあります。

字どもたちは、やがて、青年期を経て親と字が別るの人格として対等になり、自立していきます。その間の保護者の字 管てにおいては、学校の教師はよきパートナーであり続けたいと思っています。今、お字様は思春期の難しい年ごろで はありますが、ご心配なことやお悩みなどありましたら、遠慮なく学校までご相談ください。

あか は ねきょうどう ぼきん おこな 赤い羽根 共 同募金を 行 いました

10月24~26日の朝、昇降口にて社会福祉委員が赤い 羽根共同募金を行いました。この募金は、戦後間もない昭和22年(1947年)から市民が主体の民間運動として始まりました。さまざまな地域福祉の課題解決に取り組む民間団体を応援する、「じぶんの町を良くするしくみ」として、募金が続けられています。

本校でも、総額3,900 首が集まりました。鶴見区社会福祉協議会に寄付をいたします。募金をした 印に赤い羽根を受け取った生徒が、赤い羽根をジャージの胸部分に付けたり、筆箱などの持ち物に付けたりする様子が見られました。(画像は赤い羽根共前墓金公式サイトより)





12月の主な予定

12月1日(金) 生徒会選挙結果発表

4白(月)~7白(木) 3年進路面談

15日(金) 3年進路相談

18日(月)~21日(木) 1·2年保護者面談

22日(金) 大掃除

25日(月) 全校集会

26日(火)~1/8日(月) 冬季休業

※学校ホームページ内の覚覚中ニュースで、学校の行事などを随時更新しています。ぜひ、ご覧ください。 また、学校だよりのバックナンバーもアップしてあります。写真がカラーで見られます